
俺、世界移動したそうだわ

メドローア

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺、世界移動したそうだわ

【Nコード】

N0042Q

【作者名】

メドローア

【あらすじ】

ちよっと違うトリップ物をかきたかった。『外道狂人』 鎬木銀が紡ぐ真・恋姫ライフ、よろしければご堪能下さい

（前書き）

『俺、転生したんだと』が終わったら連載しようか？と考えてたモノの一つ。

って言うてもようやく原作開始くらいですので、まあかなり無理な気がします。

それはテンプレ乙wwwwwwwwと呼ばれる『トリップ型物語』となるはずだった。

「イヤゝ申し訳ないですね。

実は自分、『世界移動課』の者なんですがね、先程ゴミ捨て場で古ぼけた銅鏡を見た貴方が晴れて『世界移動』する事になっちゃったんですね。

まあ世界には『淀み』とか色々ありましてね、それを捨てて吐き出すために必要でしてね、ともかく貴方が『世界移動』するんですよ！

あ、『真・恋姫†無双』ってご存知ですかね？

ちなみに原作十年ちょい前なんで」

「……イヤ」

「そうですかそうですか！まあどっちでもイイんですがね！

ともかくそこに行って貰って、好き放題して貰っちゃう感じになっただんですね。

大丈夫ですよ！心配しなくっても特典とか付けちゃいますからね！

俺無双とか、好き放題しちゃって構いませんからね」

「……何しても？」

「ええ、何してもですね！」

とにかく特典パツパとあげて素敵な週末ライフを、私は過ごしたいんですね。

とゆーわけで、ズバリ好きな武器は？」

「金棒」

「そですかですか、じゃあ絶対に折れたり曲がったり錆びたりしないのをあげちゃいますね。」

じゃあ欲しい能力なんかは？」

『無限の剣製』とか『最強スライム』とかなんでもあげちゃいますよ？」

「パワー」

「じゃあ渡しちゃう2・5mの金棒を軽々振り回せるくらいにしますかね。」

んじゃ頑張っで行っちゃってくださいね……っと、やっと行っただね。

さて、帰ってビールでも飲もつかね……あ、世界塞いで世界塞いでね」

だがそうはならなかった。

無論ならなかったのには理由がある。

それは単純に人選が悪かった。

「荒野……へえ、マジで来てやがんのか。

それにこいつは……カッカカカカ！血のニオイ！！

イイ感じだ、平和な日本をおさらばして紛争地域でやりたい放題
してやるうかと思ってたが……最高だろうよ」

彼、『かぶらぎいん 鎬木銀』は『倫理』と『道德』を置き去りにした『親殺し』

の『快樂殺人者』だった。

ただ、それだけ。

ある時は助けた『礼』という口実を振りかざし。

「親も何もかんも殺されて、犯されそうになってたってところか……
テメエ、名前は？」

「あ……えっ、あっ……あ、名前は？」……『寧』」

「『寧』？中国人か？」

「生まれは……『益州』」

「……嬢ちゃん、もう一度名前を言え……本当の、な」

「……『甘寧』……」

「へえ、そいつはおもしれえ。

顔立ちもそこそこ……オイッ！」

「？」

「一人なんだろ？」

奇遇だが俺もだ……テメエ俺に付いて来い」

ある時は弱みに付け込み。

「イイかクソガキ！ テメエは『バケモノ』だ！！」

「バケ……モノ……」

「そうだ、そうだよ！ テメエはバケモノだ！！」

そうじゃなけりゃこんなテメエみてえなガキが、大の大人をこんなにも殺せる訳ねえだろうが。

嫌われて、怨まれて、憎まれて、蔑まれて、クソみてえに扱われるべき存在なんだよ！！」

「……あ……うあ……あっ……」

「ここにいるのも親に棄てられたからだろう？

それは全部全部テメエのせい…… テメエがバケモノだからだ」

「れんは……バケモノ」

「そうだな、テメエはバケモノだ。」

「だがな、俺とここにいる思春だけがテメエをただの『人』として扱ってやれるんだわ」

「……ほんと……に？」

「ああ、絶対だ。」

「飯も食わせてやる、水も飲ませてやる、ぬくもりもくれてやる……だからテメエは何をすべきかわかるか？」

「……（ぷるぷる）」

「簡単だ、俺に従い俺の為だけに死ね。」

「それがお前の生まれて来た意味で、生きる意味だ」

そしてまたある時はその弱みを自ら作り出す。

「盗賊が！盗賊が私の父上を！母上を！兄上を！」

「……俺がそいつらを殺して来てやろう。」

探し出してでも必ずテメエに軀をくれてやるよ」

「私も付いて参ります！」

客人の銀殿に任せるのではなくこの手で仇を取りとうございます

！！！」

「じゃあ……俺と一緒に来るかあ、『星』？」

「はい！共に参りましょうぞ！！」

年月は巡り、少女たちは大人になる。

だがその時彼女らの頭の中は『狂って』いた。

歴史上、あるべき『外史』上に存在した立場にはおらず、場所にはおらず。

だが一人としてそれを『異常』とは取らなかった。

誰が何と言ってもそれは彼女らにある唯一の『真実』なのだから。
疑う事などありはしなかった。

自分を引き連れてくれた男の為に、自分を受け入れてくれた男の為に、自分の面倒を見てくれた男の為に。

彼女らは今日も今日とて鍛えた腕を、魅惑的に成長した身体を、彼によって育てられた『狂気』孕んだ心を捧げる。

「銀様に逆らう者……鈴の音とともに黄泉路に誘おうっ!!」

「銀の敵は恋の敵、全部全部死ね」

「ほう……我らが主が狂っている？」

クククツ、そう感じ取る貴様らが狂っているという事がわからぬとは実に滑稽ですなあ」

発端となった男は今日も酒の快樂に、女の快樂に、暴力の快樂に身を任せて乱世を渡り歩く。

「へえ……テメエが『天の御遣い』様か……」。

ナイロンかビニールか、よくわかんねえが中々にイイ服着てんじやねーの……くれよ、俺に」

『外道狂人』の進む道は今日も『
■』で満ちている。

（後書き）

二つ連載は……ちょっと無理ですかね？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0042q/>

俺、世界移動したそうだわ

2011年1月11日20時53分発行